

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築環境総合性能評価システムマニュアル2016 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v1.0)

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|----------------------|--------|-----------------|
| 建物名称 | 菊元公営及び更新住宅 | 階数 | 地上14F |
| 建設地 | 名古屋市西区新道二丁目1301番 | 構造 | RC造 |
| 用途地域 | 商業地域 準防火地域 | 平均居住人員 | 256 人 |
| 地域区分 | 6地域 | 年間使用時間 | 8,760 時間/年(想定値) |
| 建物用途 | 集合住宅 | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2023年12月 予定 | 評価の実施日 | 2020年2月6日 |
| 敷地面積 | 2,310 m ² | 作成者 | |
| 建築面積 | 664 m ² | 確認日 | 2020年2月27日 |
| 延床面積 | 7,863 m ² | 確認者 | |

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

| 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート) | 2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート) | 2-3 大項目の評価(レーダーチャート) |
|---|--|----------------------|
| <p>= BEE1.1 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p> | <p>★☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100% ②建築物の取組み 81% ③上記+②以外の 81% ④上記+ 81%</p> <p>92 (kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p> | |

| 2-4 中項目の評価(バーチャート) | | |
|--------------------------------------|---|--|
| <p>Q 環境品質 Qのスコア= 3.0</p> | | |
| <p>Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.4</p> | <p>Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.6</p> | <p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 3.0</p> |
| <p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.2</p> | | |
| <p>LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.4</p> | <p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.1</p> | <p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.0</p> |

| 3 設計上の配慮事項 | | |
|--|---|---|
| <p>総合 敷地内ではできる限り緑化を行い、潤いのある空間としている。 集会所を同じ敷地内に設け、地域社会の交流拠点となるようにしている。</p> | | <p>その他</p> |
| <p>Q1 室内環境 F☆☆☆☆の建材を全面的に使い、シックハウスへの配慮を行った。また自然換気・機械換気を十分に設けている。 南面にバルコニーに面して大きな開口を設け、採光に配慮した。</p> | <p>Q2 サービス性能 各住戸にエレベーターでアクセスでき、人にやさしい街づくり条例の基準を満たした設計となっている。 十分な耐震性のある建物としている。</p> | <p>Q3 室外環境(敷地内) 敷地内ではできる限り緑化を行い、潤いのあるスペースとしている。高齢者に配慮し、出来る限り高低差のないアプローチとしている。</p> |
| <p>LR1 エネルギー 太陽光発電パネルを屋上に設置し、自然エネルギーの利用に配慮した。</p> | <p>LR2 資源・マテリアル 再生骨材の路盤利用、高炉セメント(土間コン、捨てコン)の利用を行う。</p> | <p>LR3 敷地外環境 雨水流出抑制に配慮し、透水性アスファルト・浸透トレイチ等の設置により雨水の地面への浸透を促進する対策をしている。隣地への日照に配慮し、隣地への日影ができる限り小さくなるように配慮した。十分な数の駐車場を敷地内に配置し、荷捌き用の駐車施設も確保し、周辺</p> |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

菊元公営及び更新住宅

■使用評価マニュアル:




CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v1.0)

| 重点項目 | | 評価 | 全体に対する重み係数 | 重点項目スコア |
|----------|-----------------|---------------|------------|---------|
| 1. 温暖化対策 | | | | 3.3 |
| LR1 | エネルギー | 3.4 | 0.4 | |
| LR3.1 | 地球温暖化への配慮 | 3.7 | 0.1 | |
| LR3.2.2 | 温熱環境悪化の改善 | 2.0 | 0.05 | |
| 2. 自然共生 | | | | 2.5 |
| Q3.1 | 生物環境の保全と創出 | 2.0 | 0.09 | |
| Q3.3.1 | 地域性への配慮、快適性の向上 | 地域性のある材料の使用※1 | 有 | 0.009 |
| Q3.2 | まちなみ・景観への配慮 | | | |
| Q3.3.2 | 敷地内温熱環境の向上 | 3.0 | 0.045 | |
| 3. 循環型社会 | | | | 3.1 |
| LR2.1 | 水資源保護 | 3.4 | 0.06 | |
| LR2.2 | 非再生性資源の使用量削減 | 3.1 | 0.18 | |
| LR3.2.3 | 地域インフラへの負荷抑制 ※2 | 2.7 | 0.01875 | |

結果

| | | |
|----------|-----------|--|
| 1. 温暖化対策 | 評価点 = 3.3 |  |
| 2. 自然共生 | 評価点 = 2.5 |  |
| 3. 循環型社会 | 評価点 = 3.1 |  |

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。